

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

東京教師養成塾通信

発行日 平成30年9月29日
＜第6号＞
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 03-5802-0318

●第14回講座「教育相談の機能を生かした児童・生徒理解と保護者対応」「教員のためのセルフコントロール」

平成30年9月8日（土）に、具体的な児童・生徒理解の方法を理解し、特別教育実習における学級での指導に生かすこと及びストレスマネジメントについて理解を深めることをねらいとして、第14回講座を行いました。

まず、東京教師養成塾を担当する森 勇人 指導主事がいじめ問題に対応するために必要なことや、児童・生徒と面接する際の留意点についての説明を行いました。いじめは、どの学校にも、どの児童・生徒にも起こり得るものであると考え、組織的に対応していく必要があることや、「児童・生徒とのよりよい関係づくりに向けた教育相談における対応の在り方」、「保護者との信頼関係を築くために日々意識すること」について講義を受講した塾生は、児童・生徒理解や保護者対応の重要性について改めて認識を深めていました。

続いて、東京教師養成塾を担当する野澤 一代 統括指導主事が「教員のためのセルフコントロール～ストレスマネジメントを通して～」をテーマに講義を行いました。ストレスマネジメントの概念を理解するとともに、教員として子供と接したり、組織の中で仕事をしたりする中でのメンタルヘルスの保ち方について、自身の体験を交えて説明を行いました。その後の班別協議では、昨年度の修了生を招き、養成塾における伸長期以降に向けたアドバイスや体験談を聞くなど、交流の時間を設けました。

【塾生の感想より】

いじめを見逃さないためにも、セルフコントロールを的確に行うためにも、「児童・生徒を観察し、理解する」ということが重要であると学んだ。また、児童・生徒から信頼され、相談される教師になるために、日常での関わりを大切に、良好な関係を築いていくことが必要であると学んだ。



－講座を受講する塾生－



－ストレスマネジメントについての講話－

●特別支援学校の授業参観

東京教師養成塾では、特別支援学校の教育活動や児童・生徒の発達の段階に応じた指導等への理解を深めることを目的に、都立特別支援学校の授業参観を行っています。小学校コースは、特別支援学校の授業参観を、特別支援学校コースは、塾生が実習を行う教師養成指定校と異なる障害種別の授業参観を実施します。今年度は、授業参観や施設見学、管理職や特別支援教育コーディネーターの先生による講話等を実施しました。

＜都立特別支援学校の参観協力校＞

八王子盲学校、志村学園、永福学園、鹿本学園、墨東特別支援学校、大塚ろう学校、立川ろう学校、久我山青光学園、府中けやきの森学園（9校）

【塾生の報告書より】

一人一人の特性を見極め、それに応じた配慮や指導を考えなければならないという点は、特別支援学校も通常の学級も共通している。個に応じた指導は、児童・生徒の可能性を大きく伸ばすものであるということに改めて学んだ。その上で、学習環境の整備や丁寧な児童・生徒観察及び理解に努めていきたい。



－授業参観の様子－

●英語に関する講座「外国語活動の模擬授業」

東京教師養成塾では、今年度、英語に関する講座を6回実施しています。9月8日（土）の第3回の英語に関する講座では、塾生が東京都の独自英語教材である「Welcome to Tokyo」を使って模擬授業を行いました。「Welcome to Tokyo」に掲載されている「2 給食を楽しんでもらおう！」「4 お祭り遊びや食べ物をすすめよう！」を取り上げ、塾生が指導資料を読み、教材・教具を準備して授業を行いました。模擬授業や振り返りを通して、これまで講座で学んだクラスルームイングリッシュを実際に用いたり、外国語活動の授業づくりのポイントを学んだりすることにより、外国語活動の授業実践についての具体的なイメージをもつことができる活動としました。

◆ 学級集団づくりに向けてー集団の把握、個への対応、規範づくりー ◆

東京教師養成塾教授 水野 久美恵

学級は、安心して過ごすことができる場所であり、他者との関わりの中で自らのよさを発揮できる場所であればなりません。学級集団をつくる考え方は様々にありますが、マニュアルはないと言っていいでしょう。それは、学級集団に違いがあるからです。教師は、個や集団に応じて目標や方向を明らかにし、計画を立て実践し、見つめ直すことを基本によりよい学級づくりに励むのです。

<集団の把握>

個や個のつながり、集団の情報を集めて整理し把握します。健康診断の記録、指導要録の記録等の情報とともに、授業や休み時間の様子の観察、毎朝の健康観察、個別相談、日記類、アンケート調査等の情報を収集します。また、情報収集には他の教師の力も借ります。一人だけの判断で違う方向に進むのを防ぐためです。そして、教師間で情報を交換し、情報を共有して、よりよい学級づくりを目指します。集団は変動するものであり、観察眼を磨く努力も必要です。

<個への対応>

一人一人の子供に付けたい力と手だてを考えます。そうすれば、子供の様々な場面を捉えて、具体的に「認める」「ほめる」ことができるはずです。子供たちに安心感や所属感をもたらして、一人一人の自尊感情を育み学級集団を高めます。記録を累積し、対応を改善していくことも必要です。要は授業。一人一人の学び方の違いに考慮した授業づくりをし、「楽しく、学びがいのある授業」をするのは当然のことです。

<規範づくり>

子供が安心して過ごすことができる規範（ルール）をつくります。規範は、教師が子供を管理しやすくするためのものではないのです。人間関係、集団活動、授業、生活に関する規範が子供が必要感もち学級全体で意識できるものにします。併せて、子供の願いや個性を大切に個や集団の成長を目指した共通の目標をつくり、子供の主体性を育むことも必要です。さらには、言語環境を中心とする教室環境づくりを大切にします。

学級のよい雰囲気は、教師の姿勢、一つ一つの場面での指導の在り方等が大きく影響します。塾生には、よりよい学級集団づくりを意識した実習を行うよう指導するとともに、子供を第一に考え行動できる力の定着を目指していきます。

◆ 指導方法・指導技術を身に付ける ◆

東京教師養成塾教授 橋本 茂樹

9月から伸長期に入りました。各教科等の特性に応じた指導の在り方の理解を深め、更に授業力を高める時期です。教科等指導力養成講座の一環として、10月～12月までの間に各班で「授業実践研究」を実施します。いわゆるチーム研究です。目的は、授業づくりや協議、指導主事等からの指導・助言を通して、教科等の指導方法や授業実践の実際について理解を深めることです。主体的・対話的で深い学びを実現するために、現在、各班で話し合いを進めています。

ある班では体育の授業づくりをしています。主体的・対話的で深い学びを実現するために研究主題を設定して、主題に迫る具体的な手だてを考えたり、子供たちに「できた・分かった」という達成感・成就感を味わわせる授業展開等について話し合ったりしています。教授の指導の下、意欲的に学習に取り組ませるための課題の設定の仕方、学習の見通しのもとせ方、思考・判断を働かせるための学習資料の提示の仕方、個に応じた指導の在り方等について意見を出し合い、研究を進めています。まさに塾生同士が主体的・対話的で深い学びを体感しています。このことを通して、指導方法・指導技術を学んでいます。

「できるようになりたい。知りたい。解いてみたい。」と意欲的に課題に立ち向かうとき、主体的な学びが始まります。子供が夢中になって学習に取り組むことができるように、教師は「どのようにしてその気にさせるか」「何をどう仕組むか」を考えることが大切です。そのための大前提は「楽しそう、やってみよう。」などと思うことができる「魅力ある教材」だと思います。もう一つは単元全体や毎時間の導入の在り方だと思います。課題解決に向けて主体的・対話的に取り組むことを「必然」にすることが大切です。

今後も東京教師養成塾では、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、一人一人の塾生が教科等の専門性や確かな指導方法や指導技術など、実践的な指導力を身に付けることができるように指導を積み重ねていきます。